



平成 24 年 1 月 29 日(日)

第五回津谷大沢区震災復興会議

議 事 録

議 題	第五回 津谷大沢区 震災復興会議	日にち	平成 24 年 1 月 29 日
		時 間	19:00 ~ 21:00
場 所	新しい公共の場大沢事務所	参加者	・津谷大沢区振興会 17 名 ・公共の場づくり協議会、 グラウンドワーク他 5 名 ・NPO 法人アブカス 2 名

参考資料	1. 「復興計画のたたき台などを確認しましょう」(プレゼンテーション)
会議事項 及び 話し合い の 結果	<p>1. 震災復興計画の内容の確認について(説明:村中理事長)</p> <p>○中間報告会で報告する復興計画内容の確認。</p> <p>*1月27日(金)気仙沼市役所を訪問、大沢地区の震災後の活動内容及び計画策定内容等について報告した。 (菅原梅男氏)</p> <ul style="list-style-type: none">・再び3グループに分かれて復興イメージについて話し合っていた。・中間報告会までに、委員の皆さまに図面化した復興イメージ地図をお配りし修正すべき点を提出していただく。・中間報告会にてこれまでの復興会議等でまとまった内容を提示し、ご意見をいただき修正すべき点などを確認する。・今後のスケジュールについてお話しする。  <p>2. その他</p> <p>○農水省補助事業の採択決定について</p> <p>*1月19日付で補助金交付決定通知受理。1月20日からの事業執行分が予算で認められる。</p> <p>○手作りひな人形について(GW寒河江)</p> <p>*2/4(土)に手作り内裏雛を津谷の仮設住宅入居者の方全戸約100戸に配布させていただく。同日午後手作り交流会も津谷小学校仮設住宅集会所にて開催。ニットの町としても有名な寒河江市よりセーターも届けられ、同日配布予定。</p> 
その他	<p>○次回の復興会議の予定2月4日(土)は計画策定をまとめるための役員会と変更。(同日)</p> <p>○全体中間報告会は予定2月25日(土)から2月26日(日)に変更決定。 (場所は同じくツレイユの丘ホール)</p>

復興計画のたたき台などを 確認しましょう

- これまでの検討を踏まえ、整理しました
- 復興計画のたたき台として一つひとつ確認していきましょう

平成24年1月29日

復興に向けた新しい公共の場づくり協議会

青い海と緑の大地、 再起し躍進する大沢

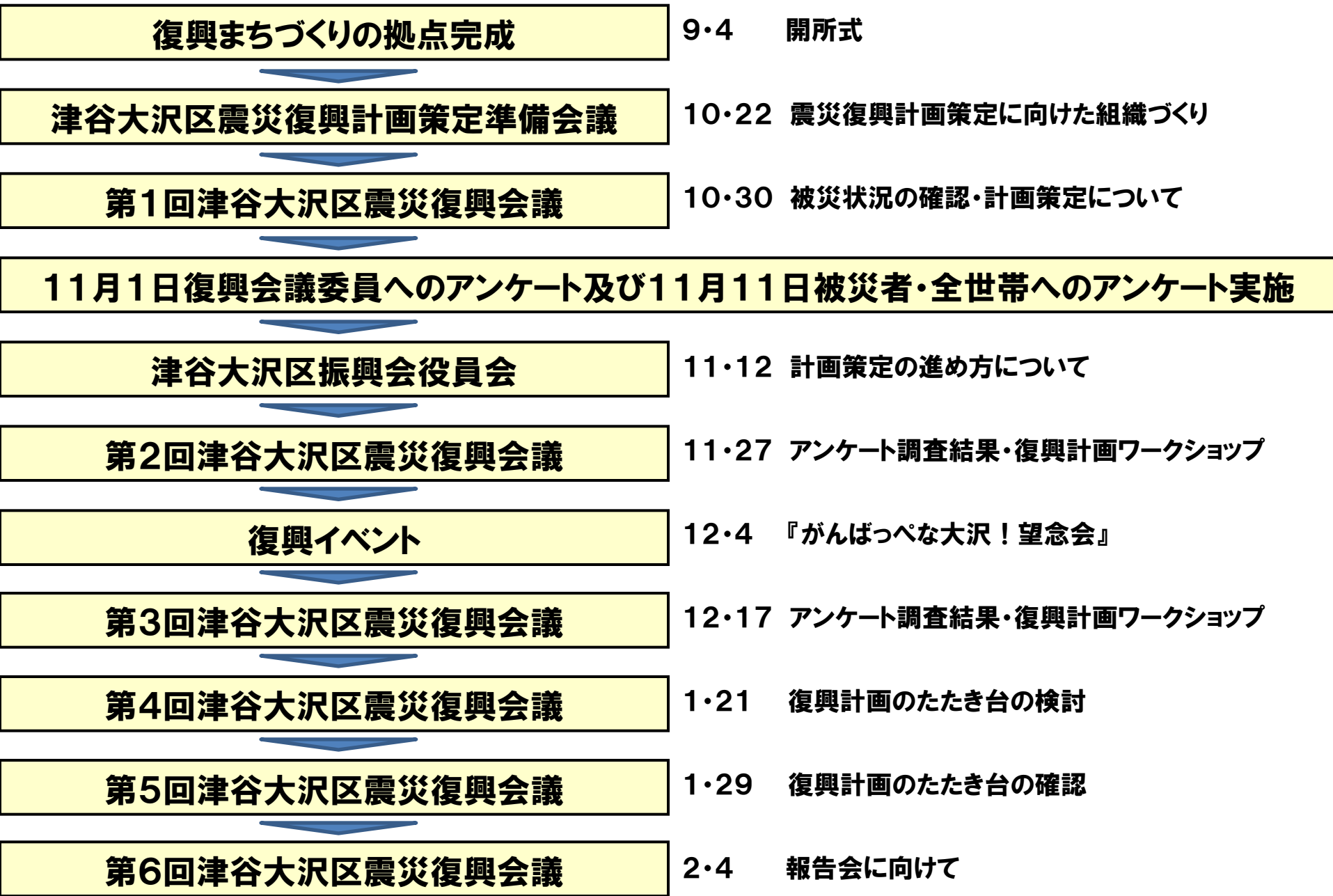
震災復興会議で話し合ったことをみなさんにお示しします

みなさんからご意見をいただきたい

平成24年2月22日

津谷大沢区振興会・津谷大沢区震災復興会議

これまでの流れを整理しました

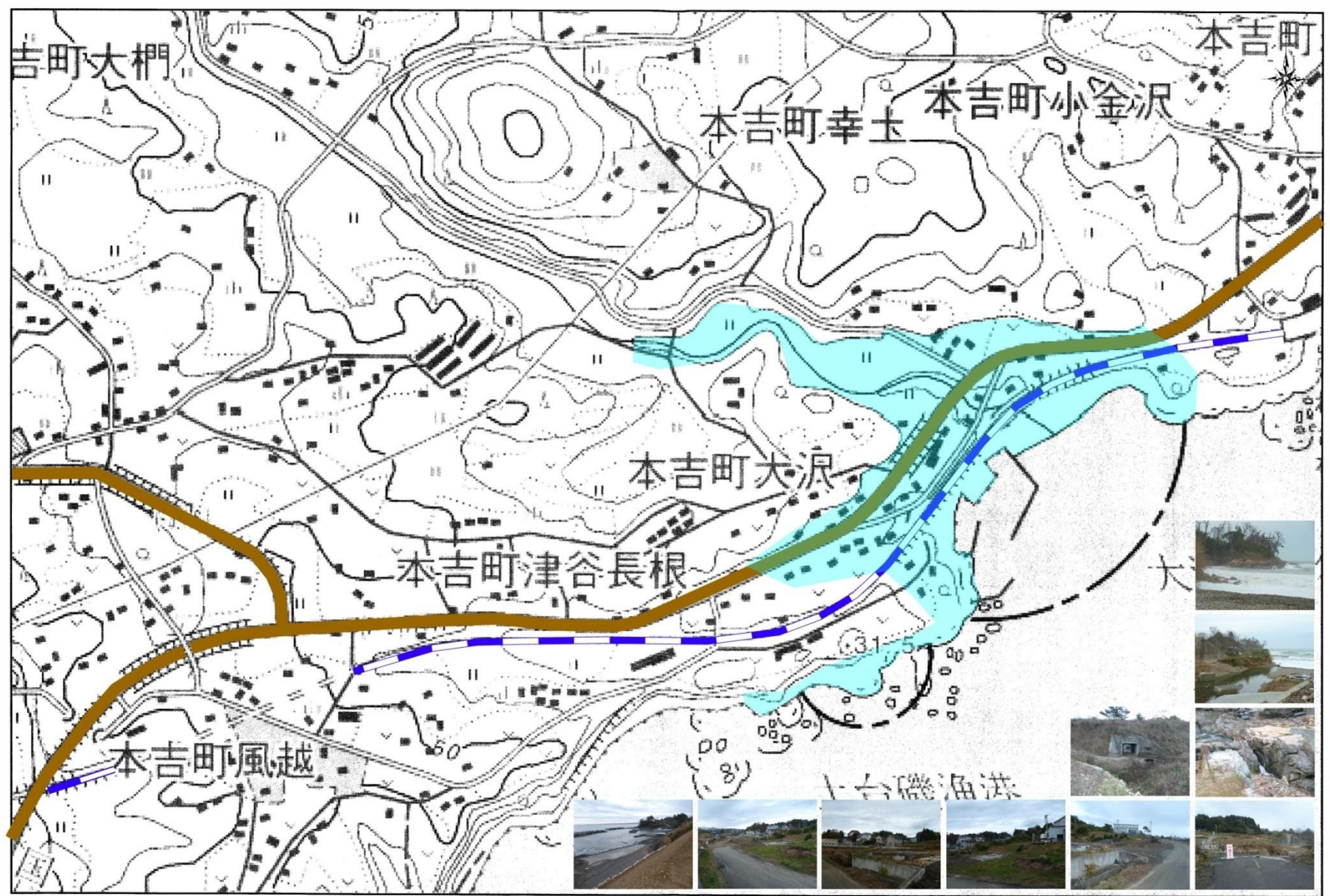


被災状況

こころより被災された方々に哀悼の意を表し、お見舞い申し上げます

○ 人的被害	死者 1名
○ 被災家屋	38世帯（全壊16世帯、大規模半壊2世帯、半壊5世帯、一部破損15世帯）
○ 浸水面積	15ha
○ 産業基盤	被害漁船：流失45隻、損壊14隻（登録漁船59隻） 船引揚機全部流失損壊 被害養殖いかだ：わかめ44台、ほや14台 被災漁港：大沢漁港（船揚場・物揚場が沈下及び損壊） 被災農地：田2.6ha、畑2.4ha 被災農業施設：揚水ポンプ場2ヶ所（3台） 被災農機具：トラクター5台 その他耕耘機、ハーベスター、田植機等（数台） 農地海岸：法面崩落が全体に亘っている 離岸堤（ブロック）全体に崩落、沈下 工場：1ヶ所損壊（山証新、旧工場損壊）
○ ライフライン	電気：4月15日に津谷長根・大沢の一部区域が通電、5月30日までには津波等で甚大な被害を受けた地域や、不在等により屋内配線の安全が確認出来ず送電を保留している方を除き、電力が復旧。 電話：3月中に42局の一部区域は通話可能となった。 大沢地区内の全域通話可能は7月27日可。 水道：6月8日に大沢の一部区域で通水、6月14日までにはほとんどの世帯に通水。
○ 教育文化	史跡：不動尊流失、磐午碑流失、琴平石祠流失、弁財天石祠流失、（竜神石祠？）
○ 地域コミュニティ施設	大沢生活改善センター流失
○ 交通基盤	鉄道JR気仙沼線不通 国道45号大沢橋付近一部決壊 市道（大沢漁港入口道）2ヶ所 L=100m、W=4m決壊 大沢橋 L=16m、W=4m崩落
○ 河川	大沢川下流部両岸一部決壊
○ 消防施設	大沢消防屯所流失、小型動力ポンプ付積載車1台流失

21世帯72人が津波で家屋が流されました



東側エリア



西側のエリア



崩れそうな崖地

3・11 14:46後、どうだったのか

菅原梅男氏資料より

津波の高さは当地域が最大規模と予想されていたが、いつかると言われながら・・・

訓練していたが実際は動けない＝津波の高さ6m？に油断と勝手な判断

避難所が流される ▶ 21世帯72人が高台に ▶ 大きな恐怖と深い悲しみ

津谷大沢区振興会(140世帯・400人)が動く
3km先の避難所「本吉町公民館」よりも幸い被災を免れた世帯が多い ▶ 民泊方式の避難所25の民家でスタート ▶ 他地域から避難転入を含め49世帯138人震災前に近い生活を

熊谷牛乳店駐車場に「津谷大沢区災害対策本部」を設置・市に届出

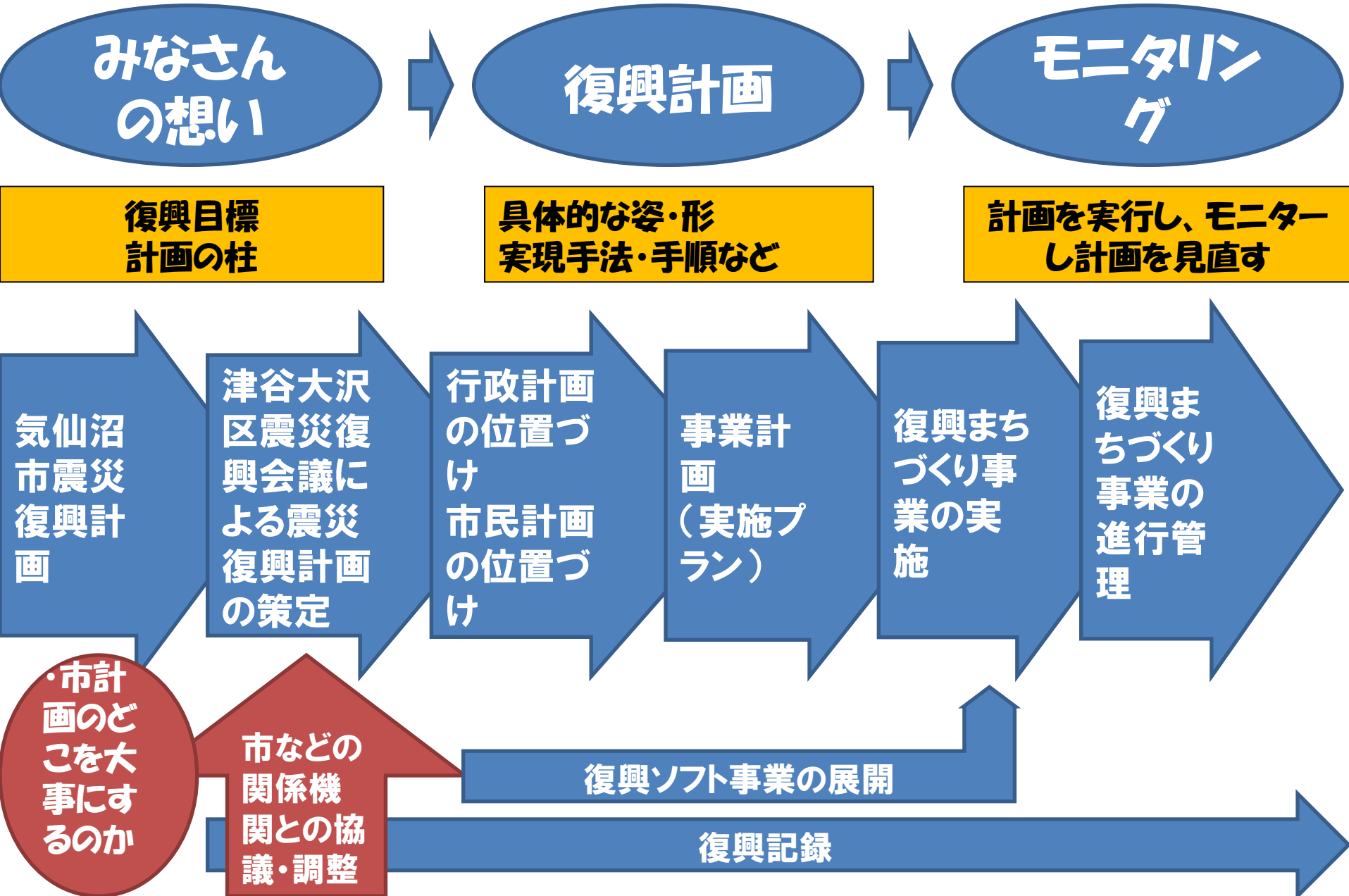
被災者の食事・灯り、要介護世帯・老人世帯の暖房対策 ▶ 衣類・日用品の確保、通院等対策

団体・個人で約100か所から支援 ▶ 情報伝達・物資配布のため1日2回集会 ▶ 被災者自身の輪番制 ▶ 計画的配布・全配布 ▶ 地区全体で罹災証明・仮設住宅入居申請の手続き

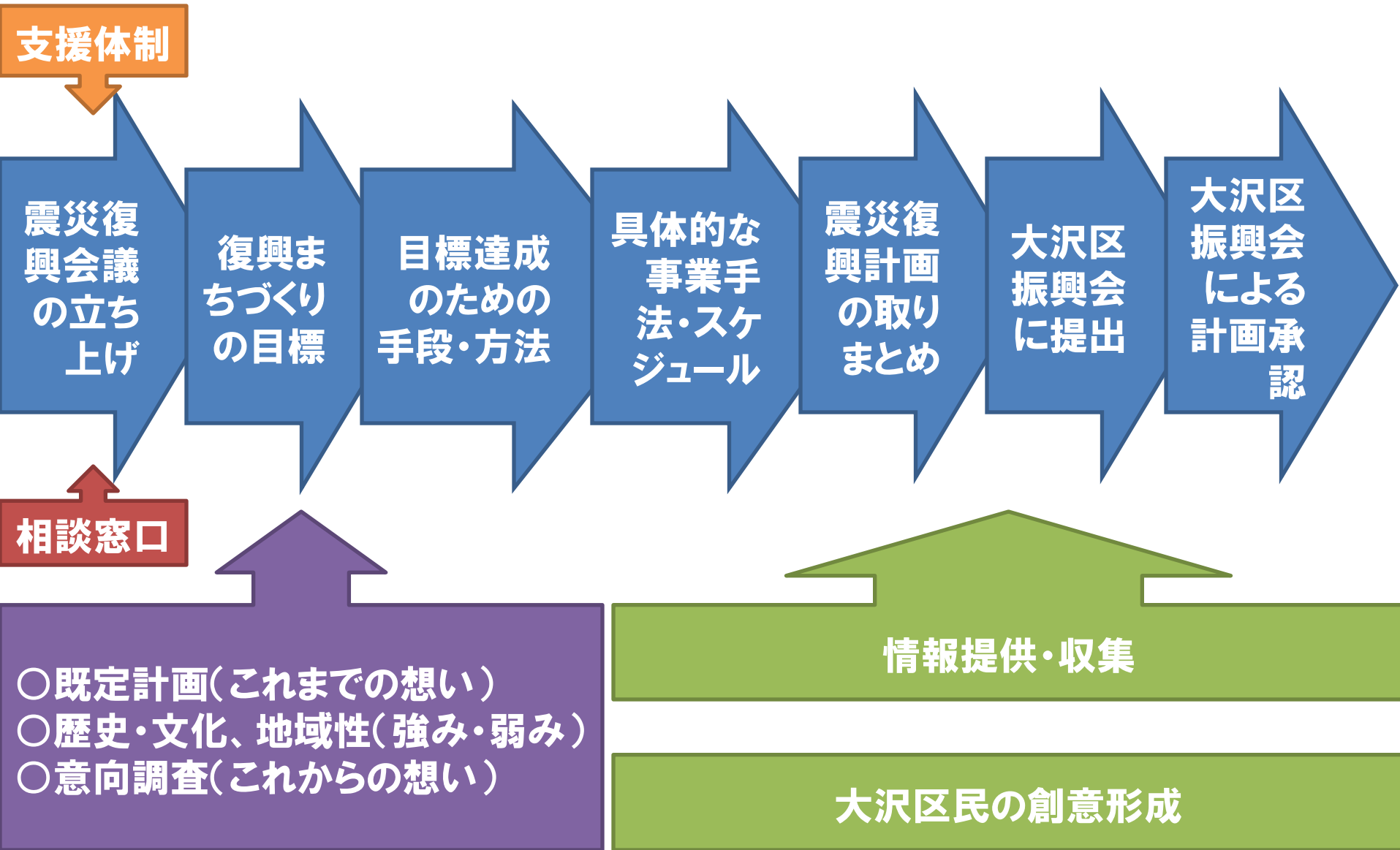
第2次避難・仮設住宅入居見通しを確認し3ヶ月間の「災害対策本部」を解散

「大沢に戻りたい」に応える、必ず戻ってもらうために「新しい大沢」の建設を2年間で

復興まちづくりの流れ



復興計画づくりの流れ



地域振興計画(2008~2017)で求めたものは・・・

海の青さと緑の大地、躍進つづける浜地域

開発と自然の調和した新しい集落づくりを目指し、地域の連帯性を深め、住みよい地域づくり

キーワードをいくつか挙げると

- **快適で豊かな生活基盤**－自然環境の保全・活用、安全性の確保、企業誘致・就業の場の拡大、宅地開発の推進
- **定住化**－コミュニティ施設などの整備
- **農業・漁業の基幹産業としての振興**－農業は生活の基盤・採る漁業からつくり育てる漁業・大沢漁港の船揚場の整備・土台磯港入口～大沢港までの道路整備
- **観光と産業振興の両立**－地域貢献型の工場等誘致・ホテル誘致・受け入れ施設整備
- **地震・津波に対する強化**－耐震診断・耐震補強、自主防災意識の醸成
- **居住空間の整備**－住宅とマイカーの増加による道路整備・処理環境の改善・公園緑地の整備
- **コミュニティ活動の継続と充実**－コミュニティサービスへの支援強化・少子化対策・青少年の健全育成・世代間交流・地域交流・大沢生活改善センターの新築または増改築・避難場所としての大沢漁村広場の整備拡張
- **自然環境保全・景観整備**－観光開発・玉石海岸の観光資源化・歴史ある東浜街道の保全整備
- **伝統文化の継承・発展**－伝統芸能・祭り・風習などの保護保存・文化財の保護継承

アンケートのご意見・提案では・・・

主なものを紹介します

- 自分たちの生活の場を確実にすることが先ず私たちの復興・土地のかさ上げなどにより安心して暮らせるように・家を建てたい
 - 漁港の早期整備・漁業の再開・被災農地には河川の改修が必要
 - 45号・鉄道などの今後のルート及び方針等の早い提示
- 1日も早く元の生活に戻る・被災者の方々が安全安心に過ごせるような地域を目指す
 - 道路(大沢橋)・鉄道の早期復旧・市営大沢住宅の修繕
 - 漁港の早期復旧・大沢漁港のかさ上げ・船揚場の整備
 - 高台に避難所・集会所の整備
 - お不動様などの史跡の復元・慰霊碑の建立・津波到達地点の表示
 - 被災地の利用については30～50年先を見据えて・以前の大沢以上の地域に復旧・復興
 - 震災前と同じようにつながりの強いコミュニティ・年間を通したイベント・支え合う地域住民に
 - 大沢区全体の意見交換・仮設入居者を招いてお茶のみ会の開催・真意を聞くアンケートまたは聞き取り
- 大沢河口への堤防の設置・国道45号のかさ上げ・旧道のかさ上げ・漁港に通じるガードを通行止めとし新たな道路の新設・ドライブインから漁港に通じる河川擁壁のかさ上げ
 - JR気仙沼線の線路のかさ上げまたはルート変更
- 被害状況の標識建立
- 船揚場の新設
 - 漁業の共同化
 - 防波堤内側を仕切ってウニの蓄養・ナマコの養殖

震災復興計画への想い

私たちは一日でも早く仮設住宅の方々を受け入れるために、安全安心な住まいとまちを、
仕事の場を、自然とコミュニティの回復を

住まいと安全安心なまちをつくりだすことが第一と考えます

大沢区を一つの生活・生業圏として再生・強化

- 私たちは仮設住宅の方々のところにふれあいながら定めた計画です
- この計画は、私たちが一丸となって取り組むよりどころとなるものです
- 私たちが復興する内容をわかりやすく示し、復興の歩みを明らかにします
- 私たちは気仙沼市、宮城県、国などと調整を図りながら進めていきます
- 私たちは計画を実践・検証する中で、計画を見つめ直しながら進めていきます

私たちが目指す目標は
平成24年度から平成32年度までの9年以内を目安とし、
平成24年度から平成26年度の3年間はハード事業を中心に集中して取り組みます

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

集中期間

平成32年度にこだわらず早くの達成を目指します

復興テーマと目標、計画の柱です

青い海と緑の大地、
再起し躍進する大沢

目標1
乳幼児から高齢者
まで安全で安心して
暮らせる家とまち

目標2
地域資源を活かし
希望を持って働ける
安定した仕事の場

目標3
自然と文化に誇りを
持ち助け合って過ご
すコミュニティ

計画の柱1
全ての住民
が穏やかに
暮らせる防
災力の高い
地域づくり

計画の柱2
利便性が増
し、いつま
でも住み続
けたくなる
まちづくり

計画の柱3
働く場の復
活再生とこ
の地ならで
はの新しい
仕事づくり

計画の柱4
自然環境と
伝統文化に
誇りを持て
るふるさと
づくり

計画の柱5
みんなが支
え合いやさ
しさに包ま
れたコミュニ
ティづくり

ワークショップでの意見をまとめました



- 災害時での協力体制の確立
- 子供でも分かる防災マップの作成
- 避難訓練の実施
- 漁・農業の協同化と高齢化からの脱却
- 大沢復興音頭の制作
- 慰霊碑の建立
- 年間を通したイベント

青い海と緑の大地、再起し躍進する大沢

目標1	目標2	目標3
乳幼児から高齢者まで安全で安心して暮らせる家とまち	地域資源を活かし希望を持って働ける安定した仕事の間	自然と文化に誇りを持ち助け合って過すコミュニティ
計画の柱1 全ての住民が穏やかに暮らせる防災力の高い地域づくり	計画の柱2 利便性が増し、いつまでも住み続けたいくなるまちづくり	計画の柱3 働く場の復活再生とこの地ならではの新しい仕事づくり
計画の柱4 自然環境と伝統文化に誇りを持ってふるさとづくり	計画の柱5 みんなが支え合いやさしさに包まれたコミュニティづくり	

- 被災跡地の高上げ
- 漁港施設の高上げ
 - 漁港集荷所の建設
 - 船揚場の整備
 - 船揚場への道路整備
 - 漁港内の養殖施設



避難看板：避難所を明確に表示(数か所)

復興イメージの実現手法を考えました

計画の柱1
全ての住民が
穏やかに暮ら
せる防災力の
高い地域づく
り

- 大沢橋の復旧
- 国道45号の嵩上げ
- 旧道(市道)の嵩上げ

- JR気仙沼線の嵩上げと復旧

- 農地海岸の護岸嵩上げと新設
- ソレイユの崖・馬場前の護岸整備

- 大沢川の開門式の水門
- 大沢川の修復・堤防の設置

- 嵩上げた道路へのアクセス整備

- 避難看板
- 津波到達点への植樹(側点表示)

- 防災施設の完備

次回事業について考えましょう

計画の柱2
利便性が増し、いつまでも住み続けたいまちづくり

○ 住宅用地

○ 市営大沢住宅の修繕

○ 被災個人住宅の修繕

○ 土地の嵩上げ

○ 公営住宅の増設

○ 町道久喜住宅線の開設

○ 二軒茶屋前町道拡幅(6m)

○ 避難路を中心に照明灯の設置

次回事業について考えましょう

計画の柱3
働く場の復活再生とこの地ならではの新しい仕事づくり

○ 防波堤の嵩上げと拡大

○ 防波堤の再整備
○ 養殖場の整備

○ 被災跡地の嵩上げ

○ 漁港施設の嵩上げ
○ 漁港集荷所の建設
○ 船揚げ場の整備
○ 船揚げ場への道路整備
○ 直売所開設
○ 番屋建設
○ 照明灯の設置
○ 駐車場整備

○ 塩炊き・鮭の燻製加工品開発

○ 漁・農業の協同化と高齢化からの脱却

○ 施設園芸

○ サーファーなどの観光施設

次回事業について考えましょう

計画の柱4
自然環境と
伝統文化に
誇りを持てる
ふるさとづく
り

- 公園の整備
- 海浜公園
- 防災公園
- 不動明王公園
- 慰霊碑公園
- 見晴らし広場・散策道の整備
- 桜並木の整備
- 伝統芸能の継承・文化財の復元

計画の柱5
みんなが支
え合いやさ
しさに包ま
れたコミュニ
ティづくり

- 防災倉庫併設集会所施設
- 災害時での協力体制の確立
- 子供でも分かる防災マップの作成
- 避難訓練の実施
- 大沢復興音頭の制作
- 塩炊き・鮭の燻製の体験学習
- 年間を通したイベント

次回事業について考えましょう

気仙沼市にすみやかに行政計画への位置づけ と事業への組み込みをお願いします

津谷大沢区の復興のまちづくり、私たちが主体となって取り組んでいきますが、行政と一緒に基本と考えます。それは、お互いに補いながらいち早く復興のための良いまちづくりを進めるためです。

また、事業はハードとソフトとなりますが、一体的に進める必要があります。

ハード事業の多くは市が行います。ソフト事業は地域住民が主体と考えます。一体的なるのには一緒になって進めることが求められます。

私たちは、市と二人三脚でまちづくりを目指します。

津谷大沢区振興会会長 三浦 広文

津谷大沢区震災復興会議庶務代表 菅原 梅男

メモに使ってください